

## 仙台市教員プレゼミナール

共に踏み出すはじめての一步 ~あなたを待っている  
子供たちがいる~

### 第4回 「仙台市の先生になること」

令和6年1月17日(水)発行 仙台市教育委員会 教育センター 若手教員支援室

## 自分にとっての「仙台市の先生になること」とは

新しい年を迎えた1月13日(土)に、第4回プレゼミナールを行いました。今回は「仙台市の先生になること」というテーマについて、仙台市の最重要課題であるかけがえのない命を預かり守る責務や杜の都の学校教育が目指すものについて学びました。今回は56名の方が参加しました。また現在のプレゼミナールの申込者は114名となっています。

### 1 「仙台市の先生になること①」

仙台市の先生になる上で大切な最重要課題や着任時に求められる姿について、教職員課主任管理主事からの話がありました。かけがえのない命を預かり守る責務、東日本大震災の教訓を今に生かし未来につなげる責務など、仙台市の先生になることの意味について学びました。また、参加者同士がロールプレイを通して話し合う場面では、子供に寄り添いながら、学年内で協力することや報告する際の順番など大事にすべきことを学びました。



### 2 「仙台市の先生になること②」

「杜の都の学校教育」が目指すものについて、教育指導課主任指導主事から話がありました。仙台ならではの魅力として、仙台自分づくり教育、仙台版命と絆プログラム、仙台版防災教育等について学びました。また、震災遺構である荒浜小学校など、子供たちと見学できる仙台市内の教育施設の紹介もありました。受講者同士が課題に関する考え方を伝え合ったり活発に発表し合ったりする場面もあり、学びを深めました。

### 3 「同期の仲間との情報交換②」

10のグループに分かれて「仙台市の先生になること」について、同期の仲間同士で情報交換を行いました。グループごとに、被災地であることや最重要課題などのテーマを選び、学んだことを振り返りながら情報交換を行いました。最後に3名の方が発表を行い、防災教育に関することなど一人一人が「仙台市の先生になること」への思いを確かめました。



### <受講者の声>

○今回の研修を受けて、改めて仙台市の教員像を認識し、4月から仙台市の教員になるという自覚を強く持つことができました。情報交換会では、「被災地」をテーマに話し合いました。そこで、当時一人一人が体験した出来事が全く違っていたことに驚きを感じました。10年たった今でも震災当時の記憶は人々の記憶に鮮明に残っていることを改めて感じました。今後、4月から担任を持つうえで、子どもたちの防災意識を高めるために授業や避難訓練などを工夫していきたいと強く思いました。

○今回のプレゼミナールでは、特に防災対応力についての講義が印象的だった。1月1日の能登での地震や津波の被害を聞く度、自分が学校で教壇に立っているときに災害が発生した場合、生徒や自分の命を守るために適切

に指示や行動をすることができるかどうか不安があった。今回の話を聞いていて、普段の生活から防災について意識し、行動することでいざというとき生徒や自分を守ることにつながるのだと考えた。他の受講生から、防災対応についてどのようなことを行っていくか意見を聞いたことも大変よい刺激になった。仙台市で生まれ育った受講生のかたの、「自分が体験したことを生徒に話す」という意見を聞いて、自分自身を震災を風化させないための教材にする発想に驚かされた。震災の記憶を風化させないためにも、生徒が想像力を持って学ぶことができるように、今後も考えていきたいと思う。生徒に学習させる部分のほか、自分自身でも業務中に災害が発生した際、どのような声かけや指示を行うべきか考えて行きたいと思う。



○今回のテーマ「自分にとっての『仙台市の教員になること』」は、このプレゼミに参加を決めた自分の最重要テーマでした。教員採用試験の面接に一番最初に聞かれた内容で、自分の言葉でうまく伝えられなかった内容だったからです。自分が仙台で育ったからという大きな理由はありますが、仙台市の教員になるということは、東日本大震災を伝えていく使命があると考えました。しかし、実際に何ができるのかを考えたときに行き詰ってしまったところがあり、今回同じグループになった人に『被災地』というテーマで「震災当時、実際にどこにいてどのような対応をとったのか」を聞くことができました。実際に聞いてみると、同じ仙台にいても場所は

様々で、同じという人はいませんでした。このことから、実際に地震災害はいつ起こるか分からないので、子どもたちが一人一人どこにいても自分の身を守ることの重要性を改めて感じました。表面的な学びだけでなく、まずは自分自身が知ることで、「生の声を聞くこと」の重要性を知りました。現場でも生かしていきたいところが、このプレゼミで気づき学べるので貴重な機会を今回もありがとうございました。

○仙台市を受験する上で仙台市の教育ビジョンや施策などは目を通していましたが、改めてこの機会にどのような取り組みがなされているのか学ぶことができました。グループの話し合いで考えたこととしては、仙台市で働くことのメリットを最大限活かせるようにしようということです。仙台市を受験した理由に、さまざまな教育機関があることや地域での連携がなされていることなどがあります。仙台市の特色を教育に十分に活かしていきたい。「仙台市子どもたち」の育成に力を尽くしたいと改めて考えました。また、私が不安を抱いているように他の方も不安を抱いていること、そして4月からの教員生活に向けて努力をしていることを知り、安心すると同時に自分も頑張らなければと気を引き締めました。残りわずかではありますが、今できることを着実にこなしていきたいと思います。



○今日は仙台市の教員になることということで、仙台市ならではの教育について学ぶことができました。特に被災地としての話では、自分も帰りの会で被災したので当時のことを思い出しました。あのときのような災害が、今度は教員という立場で起こったときにどのように動くかなどを考えていかなければならないと思いました。また、防災士の資格をもっているため、防災教育や理科など様々な教科で横断的に活用できたら良いなと考えました。

○本日のお話を聞いて、私が仙台市の教員として重要視していきたいと思うことは「被災地と災害教育」である。この内容は私自身非常に興味のあるものであるが仙台市は東日本大震災で地震や津波により甚大な被害が生じた。しかし小学生や中学生は経験していない、あるいは記憶がないという子供たちがほとんどである。そこでお話にあったあらゆる場面での避難訓練や震災遺構の見学に加え、社会科でハザードマップの学習をする際に自分たちの学区内のハザードマップを見たり学校内を歩き危険な場所はどこかを考えさせることが必要ではないかと考える。そのほか日常からの備えについて、いざ避難しなければならない時に何が必要になるのかグループワークを通して考えてみることもしていきたいと思った。

プレゼミナールは、3月まであと4回あります。これからでも参加申込はできます。関心を持たれた方はお申し込みください。第5回「教えて先輩！」は、1月27日（土）開催です。